

GENELEC®

G One

オペレーティングマニュアル

概要

Genelec G Oneは高出力かつ音の色付けが極めて少ない、幅広い帯域幅のサウンドを提供するコンパクトな2ウェイアクティブラウドスピーカーです。

ラウドスピーカーの配置

このラウドスピーカーには、内蔵アンプユニット、電源ケーブル、およびオペレーティングマニュアルが付属しています。パッケージを開封したら、ラウドスピーカーを所要のリスニング位置に配置し、リスニングエリアの中央に向かうように置きます。可能であれば、リスニング位置が部屋の左右中心線上に来るように、またラウドスピーカーが部屋の中心線から同じ距離になるようにシステムを配置してください。

接続

接続する前に、信号ソースの電源スイッチが [OFF] に設定されていることを確認してください。

オーディオ入力はアンバランスRCAコネクタ経由です。プリアンプ、コンピューター、サウンドカード、その他の信号ソースからのラインレベルオーディオ信号のみ接続できます。パワーアンプのスピーカーターミナルからの高出力信号は絶対に接続しないでください。接続が完了したら、スピーカーの電源をオンにすることができます。

ISS™ 自動スタート機能

ラウドスピーカーの電源スイッチが [ON] になっている場合、G OneのISS™ (Intelligent Signal Sensing™) が有効になっています。再生が終了して一定時間が経過すると、

自動でスタンバイモードに入ります。スタンバイモード時の電力消費量は通常0.5ワット未満です。ソースからの入力信号が検出されると自動的に再開されます。

復帰にはわずかな遅延が生じます。ISS™ 機能が不要な場合、背面パネルの [ISS Disable] スイッチを [ON] 位置に設定 (ディップスイッチ=上の位置) することで無効に切り替えることができます。

[Level -10 dB] スイッチ

[LEVEL -10 dB] スイッチはG Oneの入力感度を10デシベル単位で下げます。希望の再生ボリュームに合う設定を選択します。

トーンコントロールを設定する

Genelec G Oneの周波数特性は、背面のトーンコントロールスイッチを設定することで音響環境に合わせて調整できます。コントロールは [Tabletop] と [Bass] です。表1は、さまざまな状況での典型的な設定を示しています。図2は、周波数特性へのコントロールの効果を示しています。

Tabletop

このスイッチは、ラウドスピーカーがテーブル上やラウドスピーカーとリスナーの間に反響面がある面上に置かれる場合に [ON] にすることをすすめます。このような配置では、通常、特定の低周波でブーストが生じます。[Tabletop] 機能はこれを補正するようデザインされています。

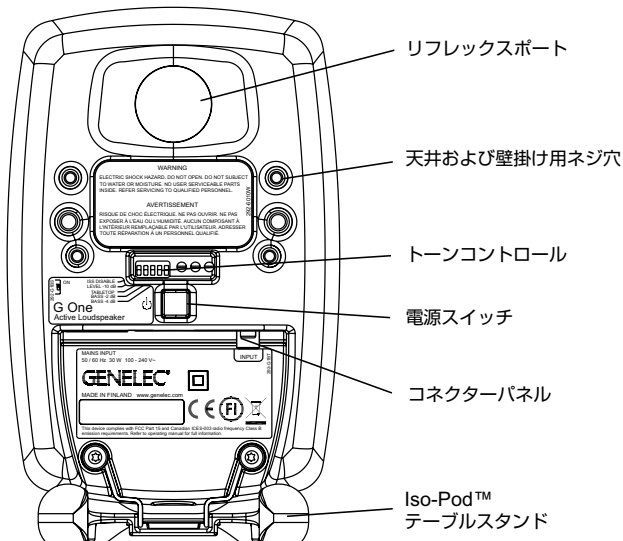


図 1 : G One 背面パネルのコントロール及びコネクターのレイアウト

Bass

[Bass] コントロールは 2 kHz を下回る低域レスポンスに 3 種類の減衰レベルを提供します。通常、ラウドスピーカーが部屋の境界付近に設定されている場合、または、低音がプーミーになったり強くなりすぎるような場合に必要となります。減衰レベルは -2 dB、-4 dB、-6 dB です。-6 dB 減衰は、両方の [Bass] スイッチを [ON] に設定することで選択できます。

トーンコントロールはファクトリー設定では全て [OFF] 位置に設定されています。この設定は、ラウドスピーカーが全ての壁およびその他の固い物体から離れた位置に置かれている場合、フリー空間でフラットな周波数特性を生成します。調整は、必ず全てのスイッチを [OFF] 位置に設定してから開始します。設定のさまざまな組み合わせを体系的に計測

| ラウドスピーカー取付位置 | Tabletop | Bass |
|--------------|----------|-------|
| フラットな無響レスポンス | OFF | OFF |
| 湿度の高い室内で自立 | OFF | OFF |
| 反響する室内で自立 | OFF | -2 dB |
| 隅に | OFF | -6 dB |
| 壁際 | OFF | -4 dB |
| デスク上 | ON | -2 dB |

表 1 : さまざまな音響環境に対して推奨されるトーンコントロール設定

または試聴して最適な音響バランスを探します。

取付についての検討事項

ラウドスピーカーを正しく配置する

ラウドスピーカーはリスニング位置を向くように配置してください。クロスオーバー周波数周辺のドライバー間のキャンセレーションの問題を最小限に抑えるため、縦向きで使用することをおすすめします。

対称に配置する

ラウドスピーカーがリスニング位置から同じ距離に対称に配置されていることを確認してください。可能であれば、リスニング位置が部屋の中心線上にあり、かつ中心から少しずれた場所になるようにシステムを配置してください。ラウドスピーカーを中央線から同じ距離に、かつ、リスニング位置から同じ距離に配置します。

反響を最小限に抑える

デスク、キャビネット、コンピューターモニターなど、ラウドスピーカー周辺の物体からの音の反射は、サウンドイメージへの不要なぼやけや、また、周波数特性の問題を生じる原

因となります。これは、反響面からラウドスピーカーを離して設置することで最小限に抑えることができます。

最小隙間

モニターがキャビネットのような閉鎖された空間や壁内部に埋め込む形で取り付けられる場合、アンプが十分に冷却され、レフポートが正しく機能するようにする必要があります。ラウドスピーカーの背後、上、両側には、少なくとも5cmの間隔を空けてください。アンプ周辺の空間では、環境温度が35度を超えないよう換気をするまたは十分な空間を取る必要があります。

取付オプション

G Oneはいくつかの取付オプションを提供しています。Iso-Pod™ (Isolation Positioner/Decoupler™) 防振テーブルスタンドを使用すると、リスナーに向けてラウドスピーカーに角度をつけることができ、ラウドスピーカーを垂直方向に正しく配置できます。また、ラウドスピーカー底面には、標準的なマイクスタンドに対応する3/8インチUNCネジ穴があります。背面には、Omnimount® ブラケット用のネジ穴があります。

動作環境

これらのラウドスピーカーは室内でのみ使用するようデザインされています。動作温度範囲は 15～35 度で、相対湿度は 20～80%（結露なきこと）です。結露を防ぐために、製品を低温環境で保存または輸送した後に温かい部屋に運び入れた際は、30分～1時間ほど待ってから箱を開けて主電源に接続してください。

メンテナンス

アンプユニット内部にオーナー自身で点検修理が可能な部分はありません。保守や修理は Genelec 認定サービスのみ実施可能です。

安全性についての検討事項

G One は国際安全基準に準拠するようデザインされていますが、安全な動作を確保し、ラウドスピーカーを安全な動作条件下に保つため、以下の警告と注意を順守する必要があります。

- ・保守および修理を認定サービス以外の者が実施してはいけません。
- ・ラウドスピーカーエンクロージャを解体してはいけません。
- ・ラウドスピーカーを水または湿気に曝さないでください。花ビンなど液体で満たされた物体をラウドスピーカーの上や付近に置かないでください。
- ・このラウドスピーカーは 85 dB を上回る音圧レベルを生成できますが、このレベルは聴覚に恒久的な損傷を与える場合があります。
- ・十分な冷却を保つため、ラウドスピーカーの背後で空気が対流している必要があります。ラウドスピーカー周辺の空気の流れを遮らないようにしてください。
- ・アンプは主電源コードがアンプまたは電源コンセントか

ら取り外されていない場合は AC 電源から完全には接続解除されません。

FCC 規則への準拠

本製品は、FCC 規則のパート 15 に準拠しています。動作は次の条件に基づきます。

本機器が有害な妨害の原因とならないこと、および本機器が不要な動作の原因となる妨害を含むあらゆる妨害を受信すること。

注：本装置は、テストの結果 FCC 規則のパート 15 に従い、クラス B のデジタルデバイスの制限を遵守していることが確認されています。これらの制限は、住宅に設置するにあたり有害な妨害に対する適切な保護を提供することを目的としています。本装置は無線周波エネルギーを発生、使用、放射しており、指示に従わずに設置または使用された場合、無線通信への有害な妨害の原因となる場合があります。ただし、特定の場所に設置することによって妨害が発生しないという保証はありません。本装置がラジオやテレビの受信の有害な妨害の原因となる場合は（装置電源をオン・オフすることでご確認いただけます）、以下の対策を 1 つ以上行って妨害を正すことをおすすめします。

- ・受信アンテナの向きまたは場所を変更する。
- ・装置と受信機の距離をさらに空ける。
- ・受信機が接続されているコンセントとは別のコンセントに装置を接続する。
- ・取扱店または経験豊富なラジオ技術者またはテレビ技術者に相談する。

製造者によって明示的に許可されていない変更を行うと、装置を操作する権限が無効になる場合があります。

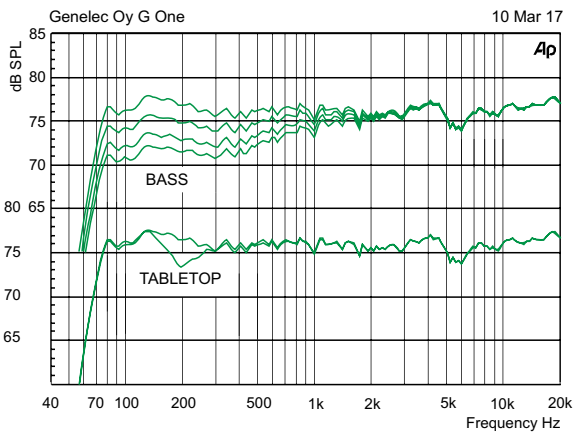


図 2 : 上図のカーブは G One の空間応答への [Tabletop] および [Bass] の各コントロールの影響を示している

システム仕様

| | |
|---|--------------------------------------|
| 周波数特性 (-6 dB) | 67 Hz ~ 25 kHz |
| 最大音圧レベル (Peak)、軸上、半空間、1 m、100 Hz ~ 3 kHz | > 96 dB SPL |
| 最大音圧レベル (RMS)、IEC特性ノイズと同条件 (ドライバユニット保護回路による制限) @1 m : | > 91 dB SPL |
| 残留ノイズレベル、フリー空間、軸上、@ 1 m (A特性) : | < 5 dB |
| 高調波歪み、85 dB SPL、軸上、1 m | 70...400 Hz < 3 % >400 Hz < 0.5 % |
| 入力コネクタタイプ: | 1 x RCAメス |
| 入力インピーダンス: | 7 k Ω |
| クロスオーバー周波数、ウーファー/ツイーター : | 3.0 kHz |
| Tabletopコントロール動作範囲 : | -4 dB @ 200 Hz |
| Bassコントロール動作範囲 (-2 dB単位) : | 0 ~ -6 dB @ 200 Hz |
| ベースアンプ出力 (長時間出力はドライバユニット保護回路により制限) : | 25 W |
| トレブルアンプ出力 (長時間出力はドライバユニット保護回路により制限) : | 25 W |
| アンプシステム歪み (通常出力 THD+N時) : | < 0.08 % |
| 主電源電圧 : | 100 ~ 240 V AC、50 ~ 60 Hz |
| 電圧動作範囲 : | ± 10 % |
| 消費電力 | |
| スタンバイ (ISS有効) | <0.5 W |
| 待機 | 5 W |
| フル出力 | 30 W |
| ベースドライバー | 76 mm |
| トレブルドライバー | 19 mm |
| 質量 : | 1.7 kg |
| 外寸 : | |
| Iso-Pod™ テーブルスタンドを含む高さ | 195 mm |
| Iso-Pod™ テーブルスタンドを含まない高さ | 181 mm |
| 幅 | 121 mm |
| 奥行き | 115 mm |

製品保証について

G Oneは、材料または製造上の瑕疵および不具合に関して2年間保証されています。販売条件および保証条件について詳しくは販売店にお問い合わせください。

www.genelec.jp/customer-service/ よりモニターをご登録ください。これにより3年の延長保証（トータル5年保証）が受けられます。

株式会社ジェネレックジャパン
＜本社＞

107-0052

東京都港区赤坂二丁目22番21号

修理お問い合わせ先

＜ジェネレックサービスセンター＞

電話番号：050-3786-1236

平日 10:00～18:00

（夏季/年末年始休業を除く）

修理のご依頼は、お電話または修理依頼フォームがご利用いただけます。修理依頼フォームは、Webサイトのカスタマー・サービス内にご用意しております。

www.genelec.jp/customer-service/

www.genelec.jp